

森林資源の活用事業《やいて、やいて》炭

(美都町)

まる も しも
丸 茂 下

地域の概要

美都町の東部に位置し、三隅町と隣接している。三隅川水系丸茂川流域に住家が点在し、山と河川にはさまれた、農地が少ない場所に位置している。

近年、若者の定住がなく、高齢者世帯が多くなってきている。交通対策も不十分であり、買物や病院への交通確保が緊急な課題となっている。

取り組み概要

① 経過

豊かな森林資源を活用し、集落民が集う場を作り、貴重な技術の継承を考えるとともに、新たな産業を作り出すことを考え、炭焼窯等の設置による木炭や木酢の製造により、町の新たな特産品化に取り組む。

② 取り組みの状況

集落民がおのおのの特性を精一杯発揮できるように、窯を作る人、木を切り出す人、小屋を作る人、食事を作る人などに別れ、毎週日曜日に一同に集い、作業を行った。

③ 成果

普段は、近所が遠いため、話もできない状態でしたが、この事業に取り組むことにより、集落民がいきいきとしてきた。集まりが良かったため、作業が順調に進み、ストックする木炭や木酢が多くなり、集落単独で収納小屋を設置した。

焼窯等の設置

集落データ

- 市町村名 美都町
- 戸数 18戸
- ジャンル 産業
- 集落名 丸茂下
- 高齢化率 37.7%
- 策定年度 平成11年度

4 課題

高齢化が進むため、作業において困難な集落民がでてくる。作業の分担を検討していかなければならない。



今後のビジョン

町の特産品として定着していくように努力していかなければいけない。

また、木炭窯の作り方などを、若い人たちに継承するための事業を公民館などと一緒に取り組みたい。

集落代表者の声

この事業により今まで疎遠になっていた集落内の連携が変わってきた。今後、新たな事業をみんなで考えて、集落内がいきいきできるよう取り組みたい。

問い合わせ先

美都町役場 企画財政課
☎0856-52-2330 (代)

自然とふれあいながらいきいき

(匹見町)

はぎ わら
萩 原

地域の概要

萩原集落は匹見町中心部より約1.5kmに位置する。集落到空家を無くしたいという意図で6年前に民宿経営を始めたのをきっかけに地域活動を活発化してきた。その事がきっかけで、15年前は集落到子供がいない状態であったが、まとまりのある萩原集落到住みたいと、若い人達も他から移り住んで増えてきた。当集落には、各分野のエキスパートが揃っており色々な活動に取り組んでいる。高齢者も元気で生きがいを持って、自分達のできる範囲で地域活動に参加している。

取り組み概要

① 経過

6年前、九州の民宿へ視察に出かけ民宿経営を始める。5年前には、町試験田のブルーベリー園を引き受け集落事業として取り組むと同時に、集落内の作り手のない田を荒らさないように集落全員で耕作できないか話し合い、子供も一緒に田植えをする等集落活動として取り組んできた。今回、集落100万円事業を活用し、従来からの取り組みを更に発展させ、ベリーを活用した加工品の生産及び販売に取り組むこととした。

② 取り組みの状況

① 民宿経営

集落の空家を利用し、集落の婦人を中心に雪舟山荘という名で経営している。地域で取れた食材にこだわり、田舎料理を満喫してもらっている。

② ブルーベリー部会

ブルーベリー園は現在40aを栽培し、昨年は2tを収穫した。今年から観光農園も取り組み消費者との交流を深めたい。苗木もつくり、面積もどんどん増す計画である。今年には苗木用にビニールハウスを建てる予定である。

③ 水稻部会

昨年は、65aを集落で耕作し、もち米とこしひかりを作る。もち米は集落販売とイベント、こしひかりは雪舟山荘とイベントに使用している。今年には85aを耕作し赤米、もち米、こしひかりと、野菜、山菜を植える計画である。

④ 萩の会

ブルーベリージャムの販売を手がけ匹見峡温泉や益田市等に販路拡大を図っているところである。移動屋台を温泉で開業、地元の野菜、果物、弁当、おでん等の販売をし、観光客に喜んでもらっている。今年、しまねふるさとフェアに参加し貴重な体験をした。新商品の開発にも取り組み試作品の部優秀賞を受賞した。

●市町村名	匹見町	●集落名	萩原
●戸数	23戸	●高齢化率	46%
●ジャンル	産業	●策定年度	平成12年度

⑤ 萩原ふるさと交流会

毎年、8月の盆に集落出身者やその家族と集落の者が集まり交流会を行っている。昨年で4回目となったが、色々な話ができて活動のヒントも得ている。

③ 成果

色々な集落活動を通じて集落の結束が深まった。高齢者も生きがいを持って野菜づくりや集落活動に参加している。今月、萩原パソコン教室を集落の手で開催したが、皆新しい事へ挑戦する意欲があり、多数の参加があった。また、集落出身者との交流会が縁で、集落活動に参加してくださる人も出てきた。

④ 課題

- ① 新商品の商品化にあたり、保健所の許可が必要となってくる。現在集会所に集落100万円事業で揃えた厨房機器を置きジャム等の加工を行っているが、今の施設では狭く許可が下りない。よって、どうしても施設の整った加工場が必要。
- ② 消費者との交流を自然の中で図る施設の整備が必要。
(例えば、色々な体験の出来る施設、炭焼き窯、土器の焼ける古代体験施設等)



今後のビジョン

- ・色々な商品開発もし、これからは所得につながることも考えていきたい。
- ・消費者との交流を大事にし、匹見の自然を大いに売り込みたい。
- ・萩原ふるさと交流会を通じ、定年後は匹見で暮したいという人が増えるような交流を続けていきたい。

集落代表者の声

萩原自治会長 上田 宏

これから更に進行する高齢化社会に向かい次のような目標を掲げたい。①集落の和 ②現在の事業の拡大 ③起業努力を怠らない ④事業の総括をし将来につなげる。以上の目標を達成するため、老若男女がそれぞれ出来る範囲で協力し、集落一丸となって取り組みたい。また将来は、各家庭に後継者がいて生活の出来る集落でありたい。

問い合わせ先

匹見町役場 総務課
☎0856-56-0301 (代)

野中里山構想

(津和野町)

の
野
なか
中

地域の概要

津和野の中心部から約13km入ったところにある集落で、住民のほとんどが65歳以上の高齢者で構成されている。集落活性化プラン策定時の高齢化率は56%であったが、現在は60%を越えている。このまま進むと、集落自体が消滅する恐れのある限界集落。

取り組み概要

1 経過

平成11年5月に話し合いを始め、同年8月に野中里山倶楽部を設立するに至ったが、高齢化率が高かったこともあり、集落活性化の必要性を理解してもらうのにかなりの時間を要した。しかし、話が決まってからは倶楽部員一丸となって事業に取り組んでいる。高齢化率が高いということは、時間的に融通が利くという反面、体力的な部分でのハンディもある。

2 取り組みの状況

組織の設立にあわせて、集落では活動の指針となる「野中里山構想」を策定した。その構想は、以下の3つの柱からなっている。

① 生産拠点としての地域づくり

集落内に自生する山菜、薬草等を地域の特産品として販売していくために、倶楽部内に山野草部会及び食材生産部会をつくり、山菜、薬草の基礎知識および調理方法等を学ぶセミナーを開催している。また、みんなの森内に、山菜薬草の展示園を開設する準備を進めている。

② 総合学習の場としての地域づくり

学校で総合学習の時間が始まるときの受け皿となれるようにと、集落内の広葉樹の森を整備しみんなの森として一般開放しているほか、休耕田を利用したビオトープや胡摩ヶ岳山道、高郷山自然観察路等を整備している。

平成14年度からは、学校週五日制の実施にあわせて、親子で参加できる「里山体験教室」を開催する。

③ 都市と農村の交流拠点としての地域づくり

地域づくりはボランティアに始まってボランティアに終わってはならないというのが野中里山倶楽部の活動の基本にあり、将来的には農家レストランや農家民宿などで、集落経営が成り立つことを目標としている。そのために、山菜の栽培やその調理方法等の講習会を開催したり、接客マナーに関する勉強会等ソフト面の充実を図っている。

集落データ

- | | | | |
|------|-------|------|--------|
| 市町村名 | 津和野町 | 集落名 | 野中 |
| 戸数 | 14戸 | 高齢化率 | 56% |
| ジャンル | 産業、交流 | 策定年度 | 平成11年度 |

3 成果

倶楽部が発足するまでは、その存続すら危ぶまれるような限界集落であったが、今では町内の数ある集落の中でも、元気のいい集落のひとつとして数えられるまでになった。

毎月の定例会や各種セミナーの開催は、野中里山構想実現のための布石であるが、一方では高齢者の生きがいづくりという観点からもその役割を担っている。

また、活動により地域内の若者から高齢者まで世代を越えた共生（ともいき）の関係が芽生えたことは、今後の集落経営の中でも大きな力になると考える。



4 課題

- ① どのようにして住民のモチベーションを持続させるか。
- ② ハード整備のための自己資金の調達。
- ③ インタープリンターの養成・確保

今後のビジョン

設立から2年半で、地元でできる最低限のインフラ整備を行ってきた。また、将来に向けてソフト面（山菜葉草の栽培方法、利用方法、木材加工品づくり等）の充実を図ってきた。今後は、みんなの森周辺を学習拠点として活用するための公衆便所等設置や、これまで学んできたことを活かし経済活動につなげていくための拠点として農家レストランの建設、農家民宿の実施等グリーン・ツーリズムを実践していくうえでのハード面の整備に取り組みたい。

集落代表者の声

野中里山倶楽部 会長 岩本榮太郎

野中里山倶楽部の活動が始まってから、早いもので3度目の春を迎えようとしているが、この3年足らずの間に、集落がとても大きく変わってきたように感じている。

倶楽部設立当初から、「お金はかけずに自分達でできることからしよう」という合い言葉で進めてきたので、何かとっては手に手に道具を持って集まり、みんなでいろいろな作業を行っている。多いときには1週間毎日集まるということも珍しくなくなった。

これまでの活動を通して、これから野中のような小さな集落が生き残っていくためには、農村本来の姿である「結」を基本とする共同作業の精神の復活が必要不可欠であると感じている。

問い合わせ先

津和野町役場 総務企画課
☎0856-72-0650 (代)

「飲んで、語って、実践しよう! 元気村プロ

(日原町)

あ き ん ど
商 人

地域の概要

国道9号線とほぼ平行した山間に位置し、国道までの距離は商人中心部から約6km、戸数21戸、人口は75人である。比較的人口は安定しているが、今後世帯、人口の減少が予想される。近年、稲作中心の農業からの脱却を目指し、わさび、タラの芽、ごごみ等山菜、特に榊の生産販売を続けている。

取り組み概要

① 経過

自治会では、100万円委員会を組織し、地区民のアイデアを募り、その中からコンセプトに合う企画を4案選び、自治会総会で承認をうけた後、実施計画「プロジェクトA~D」を練り上げ、実行した。(している。)

② 取り組みの状況

① プロジェクトA「商仁村秘伝の妙薬特許出願」

商仁親王がこの地に流された頃より商人地区に伝わる妙薬を、地区民全員で特許申請を行う。この妙薬は自然界に存在する数種類の物質を混ぜ合わせ、特殊な加工を行うことにより出来上がるものである。(特許申請中のため、詳細は公表できない。現在、継続中)

県の先駆的な事業を受け、地区民全世帯で特許の権利を共有することにより、地区民の団結をより強固なものにし、あわよくば特許権利金の不労所得で21戸の全世帯の経済基盤を磐石なものにすることで、中山間地にたくましく生き抜いていこうとする「のるかそるかの起死回生策」である。

② プロジェクトB「神の里商人、榊洗浄機購入」

商仁親王流刑の故事により「商人」と名づけられたといわれる当地であるが、その所以あってか神道信者も多く、山々に榊が多く自生している。

10年前より里おこしの一環として、地区民が一体となり榊の植林を行い、成園化もほぼ終了し、出荷量も増加している。近年は商人榊生産組合を設立し、益田・浜田市場を中心に販売額も伸びてきているが、榊出荷過程の中で洗浄作業は大変手間がかかり、生産者の高齢化もあいまって、さらなる出荷量増加の阻害要因になっている。

については「榊洗浄機」を開発、14機を購入し、榊の洗浄作業の迅速化をはかり、組合全体の生産効率向上につなげたい。

③ プロジェクトC「集いの場、駐車場・古紙回収場整備」

・生活改善センターの駐車場がぬかるんでいる事が多いため、地区の利用者が車を止めるのに不便だったので、コンクリートで舗装する事にした。

プロジェクトA~D

集落データ

●市町村名	日原町	●集落名	商人
●戸数	21戸	●高齢化率	40%
●ジャンル	産業、環境・景観	●策定年度	平成12年度

- ・古紙回収の集積場のトタンぶき屋根が腐食したので、集積場を末永く使う為、葺き替える事にした。
- ・生活改善センター前の町道の側溝が夜間の集会の時などに危険を感じていた為、溝蓋をする事にした。

④ プロジェクトD「集いの源、冷蔵庫整備」

プロジェクトA~Dを実行するためには語り合わねばならない。大の大人が語り合うには、人間関係の潤滑油、お酒やビールも必要だ。さらに地区民が揃う集まり事で手作りの料理を振舞うお母さんのスムーズな調理のためにも冷蔵庫は不可欠な「集いの源」である。

③ 成果

- A-継続事業であり、現在は特許出願のため、臨床例を整理している。
- B-榊出荷作業の効率が飛躍的に向上した。
- C-元気村形成の根本は、まず皆で話し合うことであり、そのための利便性が向上し、地域内のリサイクル活動の実績も上がった。
- D-大型の冷蔵庫が整備され、懇親会、自治会行事の開催が容易になった。

以上のとおり、元気村のさらなる生き残りを明るく図りたい。

④ 課題

- ① 人口減少と世帯の減少
- ② 安定した農家所得が得られるための経済基盤の欠如
- ③ 子供たちが都会に出て行き帰って来なくなる事



今後のビジョン

経済本位でなくみんなが楽しく暮らせる連帯感にささえられた地域づくりが必要である。

そのためには、保育所から学校教育にいたるまで郷土の社会風土や歴史的な人間関係の交わりを大切にしながら地道な生涯学習の場をつくり、伝統的なまつりごとを盛んにすると共に地域に密着した独自の文化活動を興したい。

集落代表者の声

商人集落自治会長 大井 行雄

農家収入の糧であるタラの芽や榊の栽培については、他にさきがけ栽培実験をおこない商品化生産への道をきりひらいてきた。

その豊富な経験から、この集落活性化事業により奇妙な発案にいたっているが、状況の流れに機敏に対応しながら成功のために全精力を傾けたい。

問い合わせ先

日原町役場 情報企画課
☎0856-74-0021 (代)

きれいな菅原集落づくり

(柿木村)

すが わら
菅 原

地域の概要

高津川支流の福川川沿いにある大字福川地域の端に位置する集落で、戸数10、人口30、高齢化率40%の高齢化が比較的進んでいる集落です。

取り組み概要

① 経過

ゴミ集積所及びバス停留所建築、テント購入

② 取り組みの状況

① ゴミ集積所及びバス停建築

集落の話合いにより、地区の問題点を洗いだし、その中からゴミ収集所とバス停留所の老朽化による見栄えの悪さと不便さに意見が集中し、改築することに決定した。

解体～基礎工事～建築を地区民総出で行い、出来る事はみんなで協力して行った。

② テント購入

地区の冠婚葬祭やイベント行事等に活用し、コミュニティー活動を積極的に行っている。

③ 成果

今までは、地域の顔であるバス停の老朽化と、その周辺に出されていたゴミが地域の景観を悪くしていたが、バス停とゴミ集積所を新築したことにより、景観的にも環境的にも良くなり、地区民の利用にも大変便利になった。

また、テント購入により冠婚葬祭やイベントが行いやすくなった。

計画

集落データ

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| ●市町村名 | 柿木村 | ●集落名 | 菅原 |
| ●戸数 | 10戸 | ●高齢化率 | 40% |
| ●ジャンル | 環境・景観 | ●策定年度 | 平成12年度 |

4 課題

- ① 若年層不足や高齢化による冠婚葬祭やイベント活動等のコミュニティー活動の維持
- ② 若者が帰って来やすいような集落基盤の整備（農地の維持等）
- ③ 環境整備（清流福川川や美しい里山の風景をきれいに残していく為の環境整備）



今後のビジョン

高齢化や現在の社会事情などで、今回のように地区民総出で活動することがなくなりつつあるなかで、コミュニティー活動を維持・発展させていくためにも、今以上の集落一丸となった活動をもう一度積極的に進めていくことと、若者が帰って来やすい基盤整備を行っていくことで地域の元気出しを行っていきたい。

集落代表者の声

地区民の高齢化が進み、なかなかコミュニティー活動が出来なくなりつつあるが、今回のように集落が一体となって活動することを今後も行っていけるようにしたい。

また、今回の活動が、今後のコミュニティー活動の起爆剤になるのではないかと考えている。

問い合わせ先

柿木村役場 企画調整課
☎0856-79-2233 (代)

中組集落いきいきプラン

(柿木村)

なか ぐみ
中 組

地域の概要

国道187号線・高津川沿いの六日市町境に位置する集落で、比較的まとまった耕地のある開けた集落である。

取り組み概要

① 経過

- ・冠婚葬祭・イベント用テント及び収納用倉庫・机・椅子購入
- ・農産物販売用屋台購入
- ・除雪機購入

② 取り組みの状況

① 冠婚葬祭用・イベント用テント及び収納用倉庫・机・椅子購入

② 農産物販売用屋台購入

隣接する向津集落と協同で活動組織「あいあい甚六」を設立し、各種行事やイベントに積極的に参加している。昨年は県の消防操法大会がこの地区で行われ、集落の女性が中心となり地元で作った農産物を使い、漬物などの加工品や焼きトウモロコシなどを販売した。このときは、イベント用に購入したテントや机・椅子また、中組集落にIターンでやってきた家具職人の方に作ってもらった屋台を使い販売した。

その他、村の農業文化祭などにも参加し、地元で取れた農産物を加工品にして販売したりし、集落が一体となりイベントへの参加、農産物の生産・販売・加工を積極的に行っている。

③ 除雪機購入

独居世帯や高齢者世帯の前は若者が交代で作業し、集落全体で協力しながら行った。

集落データ

- 市町村名 柿木村
- 集落名 中組
- 戸数 10戸
- 高齢化率 35%
- ジャンル 産業、環境・景観
- 策定年度 平成12年度

3 成果

テント等の各種イベント用品と、農産物販売用の屋台を購入したことにより、今までではなかった、集落全体が協力して農産物の生産や販売・加工品作りなど積極的に行うようになった。また、イベント用品購入により、各種行事にも参加しやすくなり集落全体に元気が出てきた。

4 課題

- ① 若年層不足や高齢化の進行による冠婚葬祭やイベント活動等の弱体化防止
- ② 若者が帰って来やすいような集落基盤の整備（農地の維持・活用等）
- ③ 農産加工施設等の確保



今後のビジョン

昨年活動組織を設立し1年間活動してきたが、今後はより一層農産物の生産や、加工品作りを増やしていきたい。また、隣接する大野原運動交流広場に来るお客さんを相手に農産物の販売や農作業体験等、都市との交流も行っていきたい。

集落代表者の声

活動組織「あいあい甚六」の設立と今回のイベント用品購入が、コミュニティー活動活性化の良いきっかけになったのではないと思う。今年行ったような農産物の販売・加工品づくりを今後も継続・発展させていきたい。また、隣接する大野原運動交流広場を活用した来客者との交流等にも今後取り組んでいきたい。

問い合わせ先

柿木村役場 企画調整課
☎0856-79-2233 (代)